

## 研修報告

### 「実践で活かす！在宅でもできる皮膚ケア・排泄ケア」

日時：平成 26 年 12 月 16 日（火）・17 日（水）

講師：北川 智美 先生（彦根市立病院）

大森 陽子 先生（大津市民病院）

上村 笑 先生（大津赤十字病院）

12 月としては異例の寒波が日本列島を襲ったこの日、看護協会では約 160 名の受講生が 2 日に分かれて、実践的かつ効果的なスキンケア技術や排泄管理のノウハウについて学びました。

3 人の講師の方は、いずれも県内の皮膚・排泄ケア認定看護師として活躍しておられ、あらゆる看護の場で実践できる技術を演習中心に展開してくださいました。

まず、受講生は受付で、紙絆創膏かフィルムドレッシングのどちらかを渡され、自分の前腕に貼って研修を受けます。これは午後の演習で、皮膚トラブルを起こしにくいテープの貼り方がし方を実習するためです。

午前中は講義、午後は体圧分散やポジショニングについて全体実習をした後、3つのブースに分かれて演習を行いました。

#### 褥瘡局所管理の実際

午前中の講義内容を実際に褥瘡モデルを使用して確認し、褥瘡の洗浄の仕方や保護剤（テープガーゼ等）の選択方法について学びました。

さまざまな材料を使用しそれぞれの特徴を聞いたうえで、朝、自分の腕に貼ったテープ（受付で渡されたもの）を受講生同士ではがしながら、はがし方のコツを学びました。実際に体験することで、患者さんの負担を和らげるケアにつながることを期待します。



#### やってみよう！DESIGN-R

4～5 人の班に分かれて、褥瘡モデルを使用して「DESIGN-R褥瘡経過評価」を用いたチェックを行いました。その後、先生からそれぞれの項目をどのようにチェックしたか？質問と答え合わせをしていただきました。

今回はモデルだが、実際には患者さんの情報で左右されるので、観察や状況判断が大切！と話されました。



## 排泄管理(オムツ、排泄用具のすすめ)

まずペアを組んで、現場でしているようにお互いにオムツを着け合い、その心地を体験しました。受講者からは歩きにくい、鼠蹊部が引きつれる、気持ちが悪いといった感想が出ました。その後、講師からおむつの当て方について、股関節の動きを妨げないコツや漏れないための工夫、また、かぶれなどを起こさないための注意点などについて指導を受けました。その後、再度おむつを当て直してみると、動きやすさやフィット感の違いは一目瞭然でした。



今回は実際のオムツやテープなどを使用した演習が行われ、受講者はケアを受ける患者さんの気持ちを体感することができ、自分の看護を振り返る機会となりました。

講師からは、「今日使用したオムツは持ち帰り、ぜひ着用したまま排泄を体験してほしい。どんなに不快なことを患者さんに言っているのか、させているのか。そのことが明日からの看護を変えるはず！ぜひ、自施設にも広めてほしい！」と話されました。

## 最新の用具や薬剤の展示も！



## 受講者のアンケートより

- ・ 講義も演習もとても分かりやすく、即現場に活かしたいものばかりだった。
- ・ 現状を当たり前のように入っていたが、ケアの見直しをしなくてはと思える刺激的な研修だった。まずは自分のできる事をしていく。
- ・ とても具体的で分かりやすかった。実物を見たり触れたり出来たのが良かった。
- ・ 普段の何気ないケアで患者さんの QDL が左右されるため、様々なスキルを活用していく事が大切だと思った。今回の研修は様々な体験が出来たので、患者さんの気持ちが分かった。それを明日からのケアに活かしていきたい。
- ・ 長年、オムツ交換を行ってきたが、自分ではめてみる事はなかった。体にフィットしない不快なものだった。明日からもう少し気をつけてケアしたいと思う。
- ・ DESIN-R は使用していなかったので、午前中の講義では分かりづらかったが、実際に試してみてもより理解出来た。
- ・ ポジショニングや体位変換、オムツ交換の方法など、自分が今までしていたものと違って驚いた。もっと勉強したいと思った。
- ・ オムツのあて方は職場とかなりやり方が違ったので、ぜひ実践していきたい。とても為になった。
- ・ 臨床に戻りスタッフに伝えたいと思った内容が多くあった。ぜひ学びを共有したいと思う。
- ・ 今までオムツの研修にも参加した事があったが、誰もオムツをハイレグに当てるあて方を教えてくれる人はいなかった。明日からオムツのあて方を変える。